

令和6年度教育研究活動報告書

氏名	梅原（津村）怜花	所属	経済情報学部経済情報学科
学位	博士（経営学）	職位	教授
専門分野	簿記、会計学、財務会計、会計史		

I 教育活動	
本年度担当科目	
	授業科目
学部	財務会計論、会計学概論、基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰa、専門演習Ⅰb、専門演習Ⅱa、専門演習Ⅱb 教育実習、教育実習事前・事後指導
大学院	簿記論特論、財務会計特論、研究演習Ⅰ、研究演習Ⅱ
II 研究活動	
現在の研究テーマ（3つまで）	
（1）我が国における西洋簿記導入過程の研究	
（2）会計システムの機能に関する歴史的研究	
（3）	
本年度を含む過去3年間の研究業績 R6・R5・R4	
R6	〈 〉 〈 〉
R5	〈論文〉「学問の近代化と実額としての『帳合之法』」『福沢諭吉年鑑』 （一般社団法人福沢諭吉協会）第50号、57-68頁（単著）
R4	〈 〉 〈 〉
R3以前の主な研究業績	
（1）〈論文〉日本的会計記録制度としての伝票会計システムの発生と展開『国民経済雑誌』第214巻第2号、 59-74頁、2016年（共著）	
（2）〈論文〉国立銀行の設立と銀行簿記：シャンド・システムの形成過程に関する一考察『日本簿記学会年報』 第31号、29-37頁、2016年（査読付き、単著）	
（3）〈論文〉福沢による西洋簿記現地化の試み『企業会計』（特集 福沢諭吉の会計学：『帳合之法』 と近代日本の幕開け）第68巻第3号、304-312頁、2016年3月（単著）	
（4）〈論文〉森島修太郎に見るアメリカ簿記書の影響『日本簿記学会年報』第30号、59-67頁、 2015年（査読付き、単著）	
（5）〈論文〉『馬耳蘇氏記簿法』および『馬耳蘇氏複式記簿法』に関する一考察『日本簿記学会年報』第25号、 49-57頁、2010年（査読付き、単著）（日本簿記学会奨励賞）	
（6）〈論文〉国立銀行の設立と『銀行簿記精法』シャンド・システム形成過程に関する一考察『日本簿記学会年報』 第31号、29-37頁、2016年（査読付き、単著）（第31回全国大会 統一論題報告）	
（7）〈学会発表〉わが国における女性会計学者の現状と課題 日本会計研究学会スタディ・グループ報告、 2015・2016年（共同）	
（8）〈著書〉会計研究者として活躍する女性たち 輝ける未来に向けて（部分執筆・共著）（中央経済社）、2017年	
（9）〈論文〉日本的会計記録制度としての伝票会計システムの発生と展開『国民経済雑誌』第214巻第2号（神戸大学）、 59-74頁、2016年（共著）	
（10）〈論文〉日本における中小企業会計史『会計』第195巻第2号（森山書店）、167-179頁、 2017年（共著、日本会計研究学会統一論題報告）	
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績） R4・R5・R6	
所属学会・所属団体 役職等と任期	
日本簿記学会会員、日本簿記学会会員、 日本会計史学会会員および財務担当幹事（～R1年9月） 監事（R1年9月～R4年9月再任）	

令和6年度教育研究活動報告書

氏名	梅原（津村）怜花	所属	経済情報学部経済情報学科
学位	博士（経営学）	職位	教授
専門分野	簿記、会計学、財務会計、会計史		

IV 社会活動	
1. 学外活動（本年度1年間の活動状況）	
（1）学会活動：日本会計史学会会員兼監事、日本簿記学会・日本会計研究学会会員	
（2）	
（3）	
公開講座	回
講演会	回
出前授業	回
その他（ 広島銀行との連携活動 ）	1 回
<p>（公開講座・後援会・出前授業に関するもの、その他特記事項があれば記入） 広島銀行との連携にあたり、地域総合センターと連携し、広島銀行の担当者と本学および栗原支店で打ち合わせを行ったうえで、専門演習での研究成果の展示を行った。次回の展示についても準備を進めている。</p>	